

終戦80年

戦跡記念碑をたどる



はじめに

2025年10月1日 史蹟史料部



佐々木賢一さん手書きの地図

この度の日本人会会館改修工事にあたり、事務局オフィスも移設のため荷物の整理を行っていたところ、史蹟史料部が管理している資料の棚の中から、一冊のファイルに入った手書きの地図の束が目に留まりました。

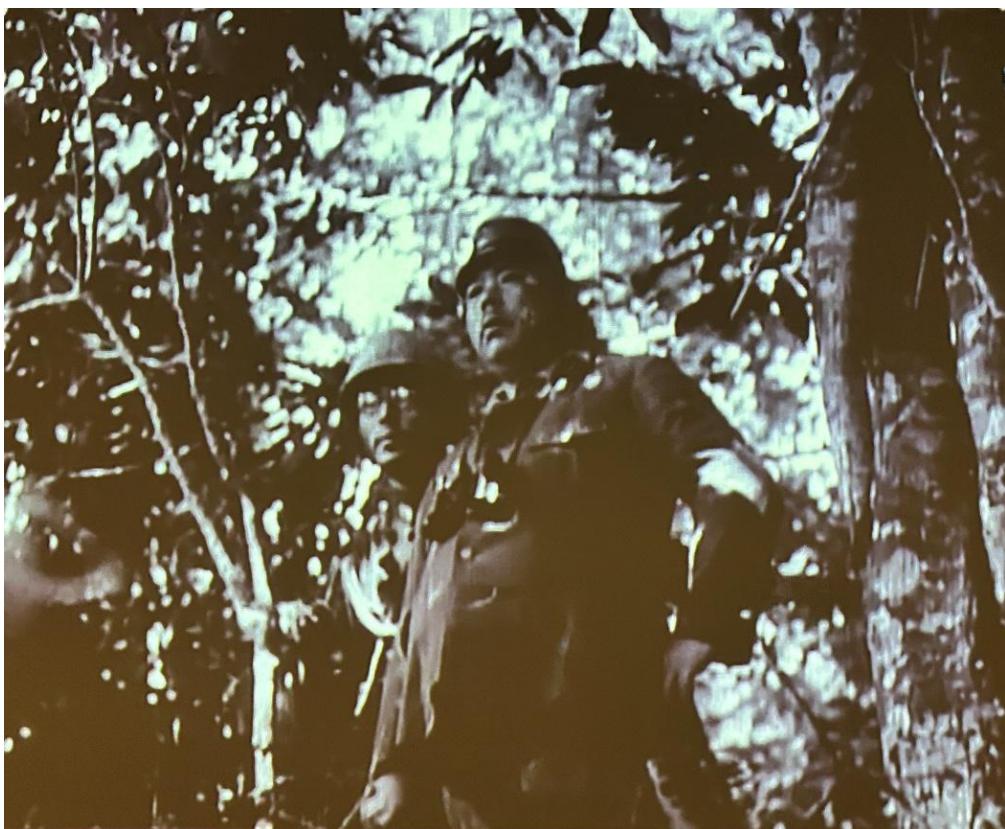
それは 1995 年、終戦 50 周年の時にシンガポール政府が設立した戦跡記念碑についての説明書きでした。

特徴のあるその文字を見て、史蹟史料部は、それらの地図と説明書きが、[南十字星 2024 年 5 月号掲載の史蹟史料部ニュースレター](#)でご紹介した佐々木賢一さんによって書かれたものだと気が付きました。

佐々木さんは筆まめな方だったのか、日本人会には彼からの手紙がたくさん残されており、いつしか彼の文字が判別できるようになっていました。

「戦争の傷跡を多くの人に見てもらい、亡くなった人びとをとむらうのが私の務めです。仕事を通じて日本とシンガポール両国の理解促進にお役に立ちたいと思っています。」とインタビューに答えた佐々木さんは、自身の旅行会社で戦跡ツアーを行い、シンガポールに暮らす日本人に歴史を伝えました。

終戦 80 年を迎えるこのタイミングで、山下奉文中将の護衛官を務めた佐々木さんの手書き資料ファイルを見つけたのは、戦跡記念碑を調べる機会なのではないかと思い、史蹟史料部で訪ねてみることにしました。



写真左より佐々木賢一さん、山下奉文中将（出典：ナショナルミュージアム映像）

戦跡記念碑はナショナルヘリテージボードによって設立されたもので、1995年当時は島内11ヶ所にありました。本を広げたような形の碑で、英語、マレー語、中国語、タミール語、そして日本語でそれぞれの場所の当時の歴史的事実を銅板に刻み、後世に伝えていきます。1995年8月15日から9月15日の1か月間は、ローカルの小中学生に参観させ、当時の次代のシンガポールの若者に国家防衛の必要性を教育していたそうです。現在は記念碑が増え、島内30カ所にあります。

第二次世界大戦の戦跡記念碑地

1. SARIMBUN BEACH LANDING ★	16. JAPANESE PROPAGANDA CENTRE ★
2. BATTLE AT KRANJI BEACH ★	17. INDIAN NATIONAL ARMY ★
3. WITHDRAWAL TO SINGAPORE	18. SELETAR AIRFIELD
4. JURONG-KRANJI DEFENCE LINE ★	19. PUNGGOL BEACH MASSACRE
5. BUKIT BATOK MEMORIALS ★	20. CHANGI BEACH MASSACRE
6. BATTLE AT BUKIT TIMAH ★	21. PALAU SEJAHAT
7. FORCE 136(LIM BO SENG'S BURIAL SITE)	22. JOHORE BATTERY
8. EXECUTION OF CAPTURED RIMAU COMMANDOS	23. CHANGI MURALS
9. BATTLE AT PASIR PANJANG ★	24. 7 ADAM PARK (BATTLE AT DAM PARK)
10. LABRADOR BATTERY ★	25. SIME ROAD MACHINER-GUN PILLBOX
11. SENTOSA BEACH	26. SIME ROAD CAMP
12. KEPPEL HAROUR	27. SHONAN JINJA
13. SOOK CHING INSPECTION CENTRE ★	28. HAVELOCK ROAD CAMP
14. FORT CANNING COMMAND CENTRE	29. ALEXANDRA HOSPITAL
15. KEMPEITAI EAST DISTRICT BRANCH ★	30. PASIR PANJANG MACHINE-GUN PILLBOX

★は1995年に設立された記念碑

文責：史蹟史料部 両頭真衣